

モダンダンスのコミュニティー的系譜と 「意識変容」学習の研究 —特にヴィグマンと江口を中心に—

お茶の水女子大学院博士課程 二階堂あき子

「研究目的と方法」

ドイツモダンダンスの代表であるM. ヴィグマン (Mary Wigman:1886-1973) は、23歳でドレスデンのリトミック体操学校に入学し、27歳でラバンと出会い、モダンダンスを始める。そのヴィグマンから1932年にドイツでモダンダンスを学んだ江口隆哉 (1900-1977) は、28歳で高田雅夫舞踊団に入る。両者に共通するのはともに成人過ぎてからダンスを始めたことであり、また成人にダンスを教える機会も持っていた。両者の取り組みと活動を辿ることで、モダンダンスが、現在まで及ぼしてきた発達期の情操教育のみならず、成人学習としても特色をもっているのではないかと考えた。

本論はヴィグマンと江口の活動の形跡、特に舞踊創作法の活動を、ヴィグマン及び江口の文献研究を通して、ヴィグマンのダンスがどのようにコミュニティー性を帯びたものであったかを整理し、江口の創作法にはどのように展開されているのかを探ることを考察する。これによりモダンダンスの持つ今日的意義及び特質を、成人学習理論の「意識変容」学習で当てはめてみることで見出すことを目的とした。

「考察」

ヴィグマンが、最初にラバンに出会った場所はスイスの菜食主義グループのコミュニティーが集う療養所 (サナトリウム) があるアスコーナである。M. グリーンが『真理の山』で述べているように、アスコーナは1900年代初頭の思想の坩堝であり、ヴィグマンはそこでモダンダンスの実験的な試みを行っていた。ヴィグマンは1920年代にはダンス体操を作り、ナチス・ユーゲント教育などの国民的運動の中に組み込まれていくが、その意味はヴィグマンのダンス方法論がアマチュアのためのダンスとして有効な方法であったからだ。そして、ヴィグマン自らも、サナトリウムの病人の前や、炭鉱夫の前などで踊る活動も行っている。

ドイツにおいてモダンダンスの成り立ちには、テニエンスの述べるゲマインシャフトのコミュニティーであるアスコーナから端を発して、ナチス・ユーゲントなどのアマチュアリズムを含むコミュニティーとの関連を辿っていくことができ、宮廷舞踊からの流れを汲むバレエとの出自の差異を見出せる。

その出自を持つモダンダンスを学んだ江口は、ヴィグマンに始めて会った時、何かを踊って見なさいと言われて、即興を知らなかったために何をしたらよいかわからない状況に追い込まれたが、

思い切って「今、ここで生まれる新しい動きを踊ってみよう」と考え、乗り越える。江口は、この体験でモダンダンスというものは、人間のあり方に目覚め、より個性的な即興により「動き」を編み出すことにあるという考えに至る。そして、この自分の即興経験を後の弟子 (大野一雄) にもさせている。また、『舞踊創作法』の中でも、モダンダンスは即興をして動きを編み出すものであると述べている。

アメリカの成人教育学者M. ノールズが述べるおとなの学びは、アンドラゴジーと名づけられ、課題を設定する能動的学習の特色を持ち、成人学習に適する。おとなの学びは、児童や生徒を主に対象にする教師誘導型の受動型学習のベタゴジーとは異なる。また、「意識変容」とはJ. メジロー (Mezirow, J.) によると、成人学習理論では、人生の問題や危機、そして出会いにより、自己を批判的にふり返えるプロセスから、私たちの世界観の基礎をなくす前提や価値観を問い直すプロセスである「意識変容」学習を起こすと述べている。メジローが述べる「意識変容」述べるような意識変容は、ダンスではヴィグマン振付作品【魔女の踊り】のゲシュタルトが創作過程で変容しており、江口振付作品【プロメテの火】でも、創作基盤が変容した記述が見受けられる。江口の即興体験とそこから考え出された即興舞踊法、特に「7つの変化」は、成人学習理論の特色である、自律性および自己決定、自らの体験を学習資源とし、即時的应用を必要とするアンドラゴジーの姿勢がある。また、S. マニングがダンスを体験して気づき、自らのモダンダンス論に疑いを持ったように、人前で踊る、人と踊るというコミュニティー内での直接的なダンス経験は、「意識変容」の体験を起こし易い。「意識変容」を体験することはある一定のダンス即興や創作経験を経ていくことで可能であると考えられる。

「結論」

江口は、ヴィグマンとの出会いで体験した即興をモダンダンスのあり方である、新しい動きを生み出す方法であると気づく。そこには、即興に追い込まれ乗り越えたことでの新しい境地を開くことで得た過程を、新しい動きの資源と考えて即興舞踊法とした。これは、成人学習理論におけるアンドラゴジーであり、自ら課題を設定しそれ乗り越え、「意識変容」を行う学習である。モダンダンスには、そのコミュニティー性系譜の中でアマチュアリズムとの関わりがあり、誰にでもできる知的な創作の試行錯誤、そして意識変容が、モダンダンスの本来の特色であった。江口の舞踊即興法とその「7つの変化」は、批判的振り返り機能として、成人学習理論のアンドラゴジーの要素を持ち、「意識変容」学習の特質を兼ね備え、成人学習に適していると結論する。